



たもんじ 2026年5月号

交流農園 便り Vol.98



2026たもんじ“寺島なす”本格的に始動!!



たもんじ交流農園で種から育てた「寺島なす苗」の苗植えが、5/3(日)のたもんじ交流農園の共用耕作地（農園部畑）を皮切りに、5/10(日)には、江戸東京野菜チャレンジャー畑、たもんじプランター、中小企業診断士協会城東支部の皆さんをはじめとする農園会員の区画、さらに東白鬚公園に新設された寺島なす畑でも、また5/12(火)には東向島駅前プランターにも植え付けられ、総勢300株を超える寺島なす苗が墨田区各所に根を下ろした。今年は、例年苗づくりをお願いしている農家さんの接ぎ木苗がネズミ被害で全滅するという思わぬ事態に見舞われ、たもんじ交流農園では種まきから自根苗を育てることに挑戦。無事に例年並みの苗数を確保できたことに、関係者の喜びもひとしおだった。また5/17(日)には東向島駅前プランター前で「寺島なす苗の一般販売」も実施され、用意した65株は完売。寺島なすの本格的な“夏”がスタートした。

今後は、水やり、剪定、追肥などが続き、中でも暑さが増す初夏の水管理は重要、順調に育てば6月末頃から収穫が始まり、7～8月に最盛期を迎える見込み(末林記)。

江戸東京野菜チャレンジャー畑は60株苗植え

江戸東京野菜チャレンジャー畑では、会員みなさんが、坂本さん(レジェンド)の指導のもと、寺島なす苗60株を植えました。水口アドバイザーから、これからの剪定・追肥・切り戻しなどの手入れの大切さのお話を伺い、いよいよ本番です！。水が大好きな寺島なす！チャレンジャー会員さん、てらたま会員/たもんじ農園会員の皆様が交代で、毎日毎日たっぷりの水やり、これから、剪定・追肥・切り戻し、9月末～10月初めまで、寺島なすがたくさん実るよう、楽しく頑張りましょう。寺島なすの収穫祭（採れ立て野菜のピザパーティ）、ほんと楽しみです!!(小川記)



5/10(日) 寺島なすの苗植えイベントに参加して チャレンジャー会員 佐野さん



娘と2人で寺島なすの苗植えに参加しました。私も娘もはじめての経験です。ポットから苗を出して、土に埋め、支柱と苗を麻紐で縛る、という作業ですが、すべてのことがはじめてで新鮮でとても楽しく過ごすことができました。これから水やりをおこない、花が咲き、実が収穫できる過程を親子ともども楽しみにしています。少し前に、たもんじ交流農園のことを知り、足を運ぶようになりましたが、娘がとても気に入っており、いつも農園にいきたいいきたいと言っています。丁寧に作物を育てる経験から、様々な感性をはぐくみ、そこに集まる方々との豊かなコミュニケーションを楽しめる子に育ててほしいと思い参加しております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



チャレンジャーの仲間たち

矢島さん一家(本人・奥様・小4さん・年長さん)



- ① 自己紹介 鐘ヶ淵町内会の紹介で会員となりました。近所にあるので興味はあったのですが、自分で畑を借りて作物を作るとまではいかないけど、土いじりの事をしたいなと思っていたのでありがたい募集でした。
- ② 育ててみたい野菜 特にこれといって希望はありません。江戸東京野菜を育てるとの事で楽しみにしています。
- ③ 希望するイベントや講演会 鉢植えのミカンを育てているので、もしそういう鉢植えで育てる時の育て方みたいなお話があればありがたいです。
- ④ 農園にかける思い 徒歩圏内に住んでいますので、何かありましたらお手伝いできます。



城東支部の診断士メンバー、畑に立つ！

東京都中小企業診断士協会城東支部の畑では、土に触れる作業や地域支援に関心のある診断士ら約20名（家族含む）が、苗植えイベントに参加しました。まずは成長し過ぎた(!?)ネギやブロッコリーを収穫した上で、土を丁寧に耕し、十分に肥料を施し、お待ちかね寺島なす苗10株を植え、たっぷりの水あげました。当日は参加人数が多かったこともあり、お隣のワーカーズさんの畑での苗植え作業もお手伝いし、こちらにも12株の寺島なす苗を植え付けました。初めて農作業を体験するメンバーも少なくなく、施肥やマルチ張り、支柱立て、麻ひもを八の字に結ぶ誘引作業などに、皆楽しみながら取り組んでいた様子でした。（末林記）



5/10(日) 寺島なすの苗植えイベントに参加して 中小企業診断士城東支部 目吉さん



「地域支援、いいね！」と乗ってきた中学2年の娘と、4月に城東支部へ入会したばかりの私。5月2日に届いた地域支援部の農園イベント告知メールがきっかけとなり、寺島なすの苗植えに親子で参加させていただきました。参加者は20名ほどで、私のような農業初心者からベテランの方まで様々。まずはみんなで雑草を抜き、そのあとで土づくり、苗の支柱結び、たっぷりの水やりなどを行いました。普段は使わない筋肉を使い、マラソンが趣味の私も翌日は軽い筋肉痛で、皆さんと汗をかきながらの交流はとても心地よい時間でした。

イベント中、佐々木さんが「中小企業も野菜も一緒。過保護でもダメ。放置しすぎてもダメ。」と一言。なるほどなあと思いつつ、隣で作業する娘を見ながら「中小企業も野菜も子供も一緒だな」と感じた、暖かな日曜日でした(笑)

娘と私が植えたなすの苗が夏にどんな実をつけるか、今からとても楽しみです。当日交流いただいた皆さま、ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。



“てらたま農園部から”

第53回 ～寺島なすの接ぎ木と定植～

農園部による寺島なす栽培の最大イベントにして最難関、それは「接ぎ木」です。今回は星野農園のご厚意により、詳細な再ご指導と共に、台木用の苗や専用裁断器や養生用マルチや毛布まで、多大なるご援助を頂きました。

用意したのは、土壌病害に強いトルバムビガーという植物の苗で、これを「台木」として使用します。ビニールポットの土に植わっている状態で、根から数センチ上の葉が一枚生えてる辺りまでの茎を剃刀でカット。次に寺島なすの苗の上部（穂木と呼びます）の茎をカット。両方の切断部分を重ね合わせて接合し、クリップ等で固定します。農園部のメンバーは、緊張で手が震えながらも1人1株ずつ作業を行い、全員終わった時には思わず安堵のため息がもれました。

しかし接ぎ木の本当の大変さは、苗を温室に移してから始まるのです。透明マルチと毛布で苗を包み、常に半日陰・高温多湿の「蒸らし」の状態を数週間キープ。接合部分に水をかけないように、毎朝の水やりにも細心の注意を払います。そんな手厚い養生期間を生き抜いて、見事に接合に成功した数本の苗が、さる5月3日、ついに農園部の畑へと定植デビューしました。コンパニオンプランツであるニラやネギと一緒に植えた接ぎ木の寺島なす、その隣の畝には、接ぎ木ではない自根苗の寺島なす。両者のこれからの成長には、どんな違いが見られるのでしょうか。しかしまずはどのなすも、全部元気に育ててほしいと思います！

寺島なすの接ぎ木の仕組み(星野農園式)

- ①台木(トルバムビガー) ②穂木(寺島なす) ③接合(差し込む) ④固定する

土壌病害に強い台木用の苗です。根元から数cm上を平らに切り、枝の真ん中に切り目を入れる。

寺島なすの苗の上部(穂木)をV字にカット。

台木の切り込みに、穂木のV字カット部分を差し込み、ぴったり合わせる。

クリップやテープなどで接合部をしっかりと固定する。



ポイント！台木と穂木の太さを合わせ、切断面同士を付け



穂木カット中



みずから接ぎ木してご満悦



寺島なす定植



接ぎ木苗養生中



行燈仕立てに

東白鬚公園に240年ぶい寺島なす畑誕生！

5/10(日)午後、東白鬚公園 40 周年記念事業の一環として、木母寺前花壇で「寺島なす苗植えイベント」を開催しました。都立公園で野菜を育てる取り組みは、墨田区ではおそらく初めての試みです。



当日は「地域の皆さんと交流したい」「野菜づくりを楽しみたい」「地域の歴史を学びたい」という思いを持った老若男女約 20 名が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で農作業を楽しみました。参加者同士で会話を交わしながら苗を植え、寺島なすを通じた新たな地域交流の輪が生まれました。今後も剪定イベント・枝吊りイベント・収穫&切り戻し&調理交流イベントを開催し、交流の場を広げていきます。どなたでも参加歓迎、事前予約は不要です。(佐々木記)



- 5/31(日) 10:00~寺島なす剪定イベント~5/10に植えた寺島なすを3本仕立てに剪定します
- 6/7(日) 10:00~寺島なす枝吊りイベント~なすの実が地面につかないよう枝を吊ります
- 8/1(日) 10:00~寺島なす収穫&切り戻し&調理交流イベント~いよいよ収穫、その後梅若橋 CC に移動して…

すみ里プロジェクト最前線~まちに芽吹く、新しい農のかたち

これまで、墨田区内外のさまざまな農体験の場をご紹介しながら、大都市の中に静かに広がる“里地里山化”の流れをお伝えしてきたシリーズ「~都会の中の里地里山をたずねて~」。今回はその新たな動きとして、地域の身近な場所で、新たに農体験の場づくりに挑戦された事例をご紹介いただきたいと思います。

【コネクトから始まる】コネクトベース (Connect Base) すみだ



東向島にあった向島保健センターをご存知でしょうか。2024年11月、「すみだ保健子育て総合センター」(横川)への統合により旧施設は未使用となっていました。この建物を活用し、新たに「すみだ地域活動支援センター」が開設されることとなりました。運営を担うのは NPO 法人とらいあぐる。精神障害のある方の地域生活を支える通所型施設ですが、利用者だけでなく地域の方も気軽に立ち寄れる「開かれた場」を目指し、カフェ機能を併設する計画が進められていました。



内装相談の依頼をいただき現地を訪れると、建物中央にはガラスに囲まれた中庭がありました。大きなびわの木と植栽があるものの、しばらく手入れされていない状態です。その瞬間、頭に浮かんだのは「これは畑になるなあ」ということでした。施設側からは、「福祉施設の利用者だけでなく、地域の方もふらっと立ち寄り、お茶を飲みながら相談できる場所にしたい」という想いを伺いました。カフェの名前も、その想いを込めて「ふらっとカフェ」とする予定とのこと。しかし、道路から見えにくい奥まった場所に、どうやって地域の人を呼び込むのか。

そこで提案したのが、中庭を活用した「ポケットファーム」です。野菜を育て、収穫し、みんなで調理して食べる。そんなシンプルな活動を通じて、年齢や立場を超えた自然な交流が生まれる場づくりを目指します。まずは、小松菜のような育ちの早い野菜から始め、土づくりや畝づくり、種まきもイベント化し、地域の方々が参加するきっかけにしていこうという構想です。

さらに、カフェのサブフロアも「あえて完成させない」ことを提案しました。ワークショップを通じて、利用者と地域の人たちが一緒に空間を育てていく—そんな余白を残したかったのです。幸運なことに、てらたまメンバーの一人がスタッフとして採用され、運営面でも「農」と「地域」をつなぐ体制が整いました。中庭は「コネクトファーム」、ワークショップは「コネクトラボ」と名付けられ、施設名も「Connect Base すみだ」。まさに「つながり(コネクト)」が、この施設の核になっています。

人とのつながりから始まり、偶然の出会いが重なり、農を通じて地域がゆるやかにつながっていく。そんな新しい居場所づくりの芽が、また墨田に生まれようとしています。(牛久記)



整備前の状態(26年1月撮影)



中庭が「コネクトファーム」



WSが「コネクトラボ」



ふらっと立ち寄る「ふらっとカフェ」

はじめました!!

第14回 内海さん (区画4-22)の場合



農園の皆様、いつもお世話になっております。この度「はじめました!!」のお題をいただきました。ちょっと重たい話になりますが書かせていただきますね。

私の「はじめました!!」は、毎朝の野菜スープです。5~6種類ほどのざく切り野菜とキノコ類を、食感が少し残るくらいに煮込みます。ある程度多めに作った方が美味しいので、一度に夫婦2人で3日分ほどをまとめて作っています。12~2月に農園で収穫できた大根も大活躍してくれました。このスープには、私なりの特徴が3つあります。① 野菜はざっと煮こぼす、② 食べる時に、その日の気分で卵や豆腐などを加えてタンパク質をとる、③ 味付けは一切しない、です。ただ野菜を煮ただけなのですが、不思議と野菜やキノコのうまみが調味料代わりにあって、十分美味しいんです。

2025年11月から、お正月の3日間を除いて、毎朝このスープだけを食べ続け、約半年になります。きっかけは、4つ下の妹が突然体調を崩したことでした。最初は

「少し具合が悪い」という程度に思っていたのですが、検査や入院を重ねるうちに、4つもの病名がつき、入退院を繰り返す生活になりました。妹は独身で、母と2人暮らしでしたので、急ぎょ母にはショートステイに入ってもらい、現在は施設でお世話になっています。私は毎日のように病院や実家を行き来する生活となり、気づかないうちに心も身体も疲れが溜まっていきました。

そんな時「まずは自分が倒れないことが大事だ」と思い、食事や体調管理について色々調べ、このスープに辿り着きました。ちょうど寒い時期でもあり、身体が温まるうえ、思った以上にお腹も満たされました。そして夫婦そろって風邪もひきませんでした。妹の闘病生活は、まだ先が見えませんが、長く付き合っていくためにも、まず自分自身の身体のメンテナンスが大切なのだと感じています。これからも無理をしすぎず、この野菜スープ生活を続けていきたいと思っています。



しめじとマイタケとトマトと大根のスープ

すみ里キャラバン「里の芽」情報 ~まちに、里地里山の芽を届けにゆく里の民たちへ

東白鬚公園	募集:「花壇樹木管理」「除草落枝回収」「イベント補助」(何名でも) 歴史を耕し、実らせませんか? 広くボランティアを募集しております。東白鬚公園サービスセンター03-3614-4467(9:00~17:00)
ノウドひきふね	ノウドひきふねの店先で木質パレットで造ったレーズドベットと丸いプランター7個で野菜作りを楽しんでいます。Mail: node.hikifune@gmail.com HP: https://www.node-hikifune.com/
コネクトファーム	東向島の「すみだ地域活動支援センター(旧保健所)」の中庭でやさしく野菜作りを始めました。問い合わせはConnectBase すみだ 03-5247-3550 まで

シリーズ『江戸の食生活と野菜たち』

第15回~江戸っ子気質と食~ 農園アドバイザー水口均



江戸東京野菜には、殿様にまつわる話が多くあります。これは逸話として残りやすいからでしょう。当時の殿様には、地域の珍しい(あるいは美味しい)野菜が献上されることがよくありました。また、普段は毒見後の冷めた料理しか口にできなかった殿様が、たまたま出先で食べた温かい料理をことのほか美味しく感じた、という話もあります。落語の「目黒のサンマ」もそんな話ですが、江戸東京野菜でいえば「目黒のタケノコ」があります。もともと「孟宗竹」は、観賞用として薩摩藩から献上されたものでした。しかし、そのタケノコは真竹よりひと月も早く、しかも大きいものがでてきます。それが江戸っ子気質にはピッタリはまったわけです。とにかく季節の先取りが大好きな江戸庶民は、当時大きな竹林となっていた目黒にこそって出かけ、料理屋や茶店もできて、大いに賑わったようです。「初物七十五日」という江戸の言葉がありますが、江戸っ子にとって“季節を先取りする喜び”は、まさに粋そのものだったのでしょうかね。

農園部オープン日: 5/31(日): 9:00~10:00 お子さま向けじゃがいも掘り会!!、農園部作業日: 毎週日曜 8:30~、水口アドバイザーご指導日: 6/7(日)、7/5(日)、チャレンジャー畑の寺島なすの「支柱3本仕立て・剪定・追肥」: 6/7(日)(午前)、たんたんたんポの田植え: 14:00~、すみだ環境フェア: 6/13(土)14(日)10:00~16:00(オリナス錦糸町)~「すみ里プロジェクト」等のプレゼン発表とお絵描き・クイズ他、足利市里山視察プロジェクト: 6/20(土)・21(日): たんぼやホテルの生息地を視察、たもんじホテル情報: ウッドデッキの「ほたるのお宿」の約400匹が、どうやら上陸した模様です。6月前半、蒸し暑い夜の20時過ぎ頃に、幻想的に光る姿が見られるかもしれません。ただし見学は静かに鑑賞し、フラッシュ撮影は厳禁です。



たもんじ交流農園便り
No.98 般 2026.5.28 発行
題字 田村風来門
編集 末林和之



HomePage

てらたま協議会

(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)

▲セブン-イレブン記念財団 (2018年2020年に助成金を頂きました)



FaceBook